



## 行田市手話言語条例について

香川 宏行(令和研究会)



- 本年日本で開催されたデフレインピックでは、自分の戦いを通じて、聴覚障がい者への理解が広がり、誰もが生きやすい共生社会の実現につながることをの願いを発信した。
- 問** 市は、手話への理解・普及の促進に関し、どのように対応してきたか。
- 答** ホームページへの掲載のほか、毎年9月23日の手話の日に合わせて、市報での周知や忍城のブルーライトアップを実施した。また、市民が手話に親しみ、学ぶことのできる機会の確保や手話奉仕員の養成に努めている。
- 問** 手話通訳の派遣要請は、年間でのどのくらいあるか。
- 答** 各種手続きの支援や医療機関への同行等、令和6年度は167件の依頼があった。
- 問** 市内小中学校の児童生徒が手話に親しみ、学ぶ機会を提供するために、どのように対応してきたか。
- 答** 学校においては、総合的な学習の時間などを活用し、ボランティア団体による手話学習を実施している。

## 長期間壊れていた西中学校のエアコンと適正な維持管理

斉藤 博美(日本共産党)



- 酷暑の4か月間、5教室のエアコンが故障し、授業に多大な影響が出た。生徒の熱中症を危惧し、公共施設の空調管理に疑問を覚える。購入後12年、業者清掃を行ったか。
- 答** 設置してから、専門業者による清掃は行っていない。
- 問** 巨大な室外機のメンテナンスはどうなっているのか。
- 答** 定期的な補修点検もなっていない。
- 問** 今回の故障は想定できるリスクだ。効が悪いエアコンを含め全校で点検、清掃すべきでは。
- 答** 突発的な故障の防止に努め、計画的な修繕のために保守点検を検討していく。
- 問** 今年度の小・中学校全体のエアコン修繕費はいくらか。
- 答** 全体で約4百万円である。
- 問** 多額の修繕費から全ての学校での不具合が確認できる。校長室も、2年間も壊れたままだった。壊れたものを早急に直すことは原則だ。補正予算を組むべきではなかったか。
- 答** 国の交付金を活用する中で内定がずれ、着工が遅れた。

## ごみの戸別収集の利用促進を／介護現場の負担軽減は

村田 秀夫(日本共産党)



- 市では高齢者や障がいのある方へのごみの戸別収集を令和7年6月から始めたが、利用者が少ないようだ。
- 答** 16件の申請があり、15件の世帯が利用している。制度が発足して間もなく認知度が低いことも要因と考える。
- 問** 地域包括支援センターやケアマネ事業所では、対象になるような方々からの相談を日常的に受けている。そこに集中的に周知と協力をお願いすることが必要では。
- 答** 福祉や介護に関わっているそれらの方に周知することは非常に効果的であり、工夫を重ねていきたい。
- 問** 要介護認定の遅れが業務負担を増やすと介護現場から改善要望が強く、2年前にも議会でも質問したが改善状況は。
- 答** 申請から結果通知まで、昨年度の平均53・4日から今年度は41・5日に改善した。認定調査員を1名増やし2週間以内に調査、市医師会に主治医意見書の早期作成の協力を依頼、認定審査会の審査件数の増等改善に努めた。